

宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という項目の肯定的割合は75%で、「家で、学校の授業の復習をしている」という項目の肯定的割合は66.8%であり、どちらも県の平均を2ポイント上回っている。日頃から自分で計画を立てて学習に取り組み、授業の復習を行っている児童が多いことが分かる。引き続き、自主学習カードを活用しながら、計画を立てて学習することの大切さや復習することの重要性を伝えていき、習慣付けていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」や「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という項目に対して、どちらも80%近くの肯定的割合が得られた。児童が積極的に話し合い活動に参加し、友達と関わりながら学びを深めていることが分かる。引き続き、授業等で話し合い活動を取り入れ、発言しやすい雰囲気づくりを行っていききたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」という項目の肯定的割合は、94%以上の結果が得られた。委員会活動や係活動、当番活動などに積極的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。引き続き、児童の意識を高められるような声かけや指導を行っていききたい。

●「学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、1時間以上学習している児童は、50%で、県平均を下回る結果となった。半数の児童が1日に1時間以上学習しているのに対し、半数の児童が1時間未満で学習が終わってしまっていることが分かる。宝木小学校では、5年生の学習時間は60分を目標としており、家庭学習では、宿題に加えて自主学習を行うことで60分目指してほしいと考えているため、家庭での学習時間を再度確認するとともに、学習内容も充実していけるよう、指導を行っていききたい。

●「ふだん(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、ゲームをしますか」の質問に対して、2時間未満の割合が42%で、県平均と同等であることに対し、3時間以上ゲームをしている児童の割合が29%で、県平均より上回っていることが分かった。また、4時間以上ゲームをしている児童も多数いることから、ゲームの使用時間を見直すよう指導していく必要がある。保健の授業等で健康面について学ぶだけでなく、学級活動の時間等で考えさせる場や話し合わせる時間を設けて指導を行っていききたい。

宇都宮市立宝木小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・単元のまとまりを見通した授業をデザインした上で、導入や発問を工夫したり、学習課題を明確化したり、課題にじっくりと取り組めるようにし、主体的に学ぶ態度を育成する。	・3教科共に、知識・技能は国や市の平均を下回っている。それに付随して、思考・判断・表現も低い。 ・質問紙において、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」は高い数値である。教師が認めていることは伝わっているが、児童の自己肯定感や帰属意識などは今後も育てていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・ICTの活用など方法としての授業改善は進んでいるものの、調査結果を見ると深い学びにまで授業改善が進んでいない。	・対話的な学び、深い学びの実現に向けて評価の共有化をすることで授業改善を図る。	・教師と児童の評価の共有化を推進する。 ・教師が育てたい力と目指す子供の姿を明確にして授業に臨む。 ・児童に目指すゴール像を示してから授業に臨む。 ・学校全体で家庭学習の具体的な方法や目安などを共有し、学習の習慣化や反復、習熟を図る。